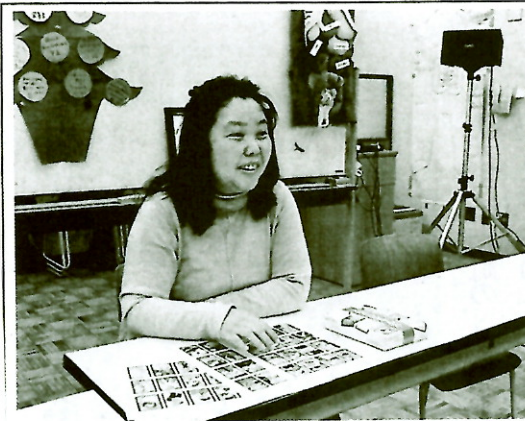


遊び通じて医療に理解

葵区 HPS協会 「メディカルかるた」作製

遊びを通して療養中の子どもをケアするホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)協会(事務局・静岡市葵区)はこのほど、遊びながら病院や医療について学ぶ「メディカルかるた」を作製した。かるたは読み札と絵札48枚ずつ。「手術の朝昼ご飯はお休みです」「聴診器 胸やおなかの音を聞く道具だよ」などの読み札と、人形で診察の様子などを模した絵札で構成している。23日に県立大短期大学部で開かれるHPSシンポジウムでお披露目する予定。

療養中の子どもたちに医療に対する理解を深めてもらい、治療への抵抗感の軽減を図ろうと作製した。同協会が企画し、心身障害児総合医療療育センター(東京都板橋区) HPSの後藤和恵さんと県立大短期大学部でHPS養成講座を開く松平千佳准教授が監修し



「メディカルかるた」のサンプル(手前)と、監修を担当した県立大短期大学部の松平准教授＝静岡市駿河区

た。同センターや県立総合病院に入院中の子どもの意見も取り入れ

たという。

同協会制作担当者の南伸予さんは「かるたは日本に昔からあるなじみ深い遊び。子どもが医療について理解するきっかけになればと思う」と話した。